



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://nantonakuno.net/>
Mail info@nantonakuno.net



報徳会館前の満開の桜 (4月16日)

第6回 通常総会報告

5月8日(土)午後2時より、日光市民活動支援センターで第6回通常総会を開きました。正会員13名(表決委任者20名)、賛助会員1名の参加をいただき、2009年度事業報告および収支決算の承認、監査報告、2010年度事業計画案および予算案が承認されました。

「学びの場運営事業」は、報徳会館での居場所、学びサポートひろばの充実をはかります。「学習内容の開発」は、昨年度提案された「DAISY」の活用を開発の可能性も検討しながら進めたいと思います。発達障がい支援者連絡会、そしてこの会から生まれた勉強会や茶話会なども、「相談・情報提供活動」の一環として位置づけ、継続的な運営を行います。

今年度も地域へのメッセージ発信として、NPOなど他

団体との連携を積極的に進めていきたいと思っております。今後とも私たちの活動への参加、協力をよろしくお願いいたします。

今年度は役員の変更はありません。現役員の任期は規約により、2011年6月末日までとなっています。役割分担については、以下の表をご覧ください。(手塚)

子育て・親育ち勉強会・7のお知らせ

「うちの子、ちょっと心配?」と思ったら

7月24日(土) 午後1時30分より
会場：日光市中央公民館(予定)
講師：山崎育さん(つばさ園)
参加希望者は電話でご連絡下さい。

理事	金谷 真奈美	相談・情報提供	
理事	白井 佐智子	相談・情報提供、学習内容、インターネット、(会計事務)	
理事	手塚 郁夫	学習内容、HP管理、自然環境、(会報)	理事長
理事	西尾 敬子	相談・情報提供、学習内容、(会計事務)	副理事長
理事	沼尾 忠宏	相談・情報提供、青少年の自立・就労支援、HP管理	
理事	村上 幸子	相談・情報提供、青少年の自立・就労支援	
理事	吉成 啓子	相談・情報提供、青少年の自立・就労支援	
理事	吉成 勇一	相談・情報提供、青少年の自立・就労支援、HP管理	
監事	山本 佳子		

目次

第6回 定期総会報告	1
なににわ訪問記	2
素粒子との出会い	2
活動日誌	3
こんな本はいかが? (12)	4



こんなゲームもやりました

居場所のひとこま

報徳今市振興会館の庭には、古い桜の木が何本かあります。桜の花の季節にはとても素晴らしい光景です。今年もお花見の会を開きましたが、当日はあいにくの雨でした。それでも利用者、ゲスト5名とスタッフ4名で楽しいひとときを過ごしました。桜の花は散りぎわも素敵です。ただ困るのは花びらが車にこびりついてしまう事です。(白井)

2 なんとなくのひろば

学校に行かない人・応援リトルプレス「ぷかぷか」を作っている富岡亜紀子さんの「なんにわ」訪問記です。



なんとなくのにわ訪問記

こんにちは。「ぷかぷか」という、不登校の人を応援する冊子をつくっている富岡と申します。つくっているといってもまだようやく2冊目なんですけど。

私は昔不登校をしていた経験から、学校に行けなくて苦しい思いをしている人を、何かの形で応援できたらな、と思って「ぷかぷか」をつくりました。あとももちろん、本をつくるという私自身の楽しみのためもあります。

勉強のためにいろいろな人にお話を聞いていて、「なんとなくのにわ」にもうかがいました。

お邪魔したのは2009年の9月頃。晴れていて、緑がきれいでいい場所だなと思ったのが第一印象です。お話をしてくださった西尾さんはとても話しやすい方でした。ご自身のお子さんも不登校をしていたそうで、経験者の強さのようなものを感じました。

私は、不登校をしていた頃、地域のボランティアサークルに入り、年齢も職業もいろいろな人と会う機会があって、だいぶ救われたことがあります。だから学校や家以外に、たとえば「なんとなくのにわ」みたいに、安心して逃げ込める場所は大事だなーと思っています。

不登校のときはいろいろなことをがんばろうとしてしまうと思うので(それが周囲には伝わらず、またさらにがんばらねばならなくなるのですが)、あまりがばらずに、「なんとなくのにわ」でもどこでものんびり過ごせるようになってほしいなあと思います。

ぷかぷか 富岡亜紀子

素粒子との出会い

山田 清一

「サイエンスカフェ 霧箱で放射線を見る」があり、実際に、素粒子を肉眼で確かめることができた時には、なんとも言うことのできない喜びでとても充実した時間が過ぎた。

私と素粒子の、初めての因縁深い出逢いは、15歳のとき、旧日光市内の本屋で暇つぶしに買った新書本だった。題名は忘れてしまったけれど。内容はニールス・ボーア氏(注1)の業績と業績の成立過程についてだったような気がする。

読み進んで行くとその中で、「素粒子」という単語が出てきた。初めてその単語に遭った、その時に訳がわからないけれど「難しいけれど面白そうだな(生来の不思議なものを知りたい)」ということから何時の間にか素粒子の持つ不思議な魅力から抜け出せずに、壺に飛び込んでしまった)

それで自力で貪欲にある程度のことは学んだ。しかし、基本的な知識も持たないで素人が理解出来るわけもない。「きわめて小さな粒子であり、まだ存在の検証すらされていないものだ」ということは理解できたけれど、私には理論上の存在としか考えられなかった。理論物理学では湯川秀樹氏が「中間子の理論」でノーベル賞を受賞した、くらいしか知らなかった。中間子とはいったい何なのかもよくはわからない。

理論物理学 はとても難しい数学を駆使してなし得るとしか知らず、到底、私には入り込めない世界



だった。量子力学と理論物理学の違いも霧の中だった。現在、まもなく60代になるけれど、ずっと「素粒子」なるものに対して飽くことなく独学(?)で追いつけてきた変な、執念深い人間だから、まだこれからも続けていきたいと思う。

疑問に思ったことは自分が納得するまで調べ上げてみないと気が済まない。それ故「お前に質問をされることは、俺をいじめていることと同じだ」とも言われながら、遅々とした学びをしている。「素粒子」は飽きることの無い夢とロマンを私に与えてくれた素晴らしい疑問のかたまりだ。おかげで物理学に限らず自学・自習のたのしさも体得することが出来たのかもしれない。

中学生時代に「素粒子」と出会い、「素粒子とは」を追って来た男のロマンは消えることを許さず、偶然にも「霧箱...」に参加をすることができ、関係者の方々にお礼を申し上げます。

(注1)「量子論」の立場から初めて、原子構造を解明し、量子力学の建設に貢献したデンマーク人。20世紀はじめに活躍した物理学者。(広辞苑より)

- 3月 6日 (土) 理事会 (第32回)
- 3月 7日 (日) 通信・なんとなくのひろば 第19号発行
- 3月 8日 (月) 茶話会
- 3月13日 (土) 子育て親育ち勉強会(第6回) 講師: 椎子顕士郎さん(市教委)
- 3月21日 (日) ベリー会
- 3月22日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第47回)
- 4月 2日 (金) 子どもの居場所 2010年度開始
- 4月12日 (月) 茶話会
- 4月16日 (金) 子どもの居場所・お花見会
- 4月24日 (土) サイエンス・カフェ (26)
「杉並木の植物」 講師: 駒倉政夫さん
- 4月25日 (日) ベリー会
- 4月26日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第48回)
- 5月 3日 (月) 泉福寺「八十八ヶ所まつり」に参加 (バザー)
- 5月 8日 (土) 第6回 定期総会 (第33回 理事会)
- 5月10日 (月) 茶話会
- 5月22日 (土) まにまに工房・ます釣り大会
- 5月24日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第49回)
- 5月27日 (木) 日光青年会議所主催「親学」の集まりで「なににわ」を紹介
- 5月29日 (土) サイエンス・カフェ (27) 講師: 塚崎庸子さん
「川むしたんけん隊」 (協力: 今市の水を守る市民の会)
- 5月30日 (日) ベリー会 (例会および総会)
- 6月 5日 (土) むかしばなし玉手箱 (報徳会館)

■ 泉福寺「八十八ヶ所まつり」バザー

絶好のバザー日和。お寺の駐車場には、いのくら児童クラブやNPOなどのお店が並びました。今回も「なににわ」はバザー店を開きました。お赤飯、ケーキなど用意した食べ物も完売。村上理事ご家族のみなさん、ご協力ありがとうございました。(T)

■ サイエンス・カフェ(26)・「杉並木の植物」講師: 駒倉政夫さん

杉並木の環境や調査状況、植物の種類がかかれたレジュメをみなさんに配り、それにそって駒倉さんが話をすすめました。とてもいいのでわかりやすく、ときにおもしろい話もくわえて、会場のみなさんを笑わせました。植物の名前について、なぜ、こういう名前になったのか、ということもどんどんできて、とても興味深い話でした。

最後に質問タイム。杉並木の調査日はどう決めるのか、メンバーは(班長1人、記録する人1人、採取する人1人、植物をみつける人2人) 悩みは、若い人がいないということです。なににわから誰かいてもらおうとよいかも? 調査のペースは、100mで1時間かかるとのこと。1日は1km~1.5kmが限界だそうです。大変そうですが、とてもおもしろそうです。みなさん、お菓子と飲み物をたべながら、とてもリラックスして話をきけたようです。杉並木に大変興味もてる内容だったと思います。今度、並木を歩くときは、いろんな植物をみつけながら、歩くのもよいですね。(N)

■ サイエンス・カフェ(27)「川むしたんけん隊」講師: 塚崎庸子さん

晴れの予報だったのに、朝は雨がぱらぱら。目的地の小百に車を進めるにつれて雨が強くなりました。子どもたちを含めて18人の参加者が小雨の中川に入り、50分ほど採集。小百桜公園の東屋に運んで、わいわい楽しく川むしの観察ができました。「今市の水を守る市民の会」のみなさんのサポートに感謝いたします。(T)

■ むかしばなし玉手箱(第5回)

今回も30名をこえる参加者が報徳会館の座敷に集まりました。緑がっぱの庭を背に、おとなも子どもも、日本や外国のお話に耳をかたむけ、楽しい時間を過ごしました。はなおかさん、だいもんさん、ありがとうございました。(T)

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。どなたでも参加自由の会。気軽にご参加ください。
(担当: 西尾・白井) 連絡: 090-3227-7079

子育て・親育ちの茶話会

場所: 今市報徳振興会館
日時: 毎月第2月曜日(午前10時~お昼)
参加費: 300円(お茶代)
次回は6月14日(月)
同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちや話し合っ、情報や悩みを分かち合ひましょう。
「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に

川むしたんけん隊

川に入って採集(上)、東屋に運んで分類(下)



むかしばなし玉手箱

報徳会館の大広間で、はなおかさん、だいもんさんの昔語りを聞きました



特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 日光市今市378
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631
E-mail: info@nantonakuno.net
ホームページもご覧ください。
<http://www.nantonakuno.net/>



ここにここにっこう！ 日光市子育て支援 HP
<http://www.nantonakuno.net/kosodate/>

こんな本はいかが？ その12 ファーブル昆虫記

ノーベル物理学賞を受けた益川敏英教授の講演会が5月15日、宇都宮であった。「科学と社会」と題された講演のはじめ、益川教授は、パスツールが蚕の伝染病を退治するためにファーブルを訪ねたことをとりあげた。パスツールが蚕の生態についてほとんど知らないことにファーブルはとて驚いたという。けれど、パスツールは自ら確立した細菌学の知識を駆使し、蚕への感染を遮断してフランスの養蚕業を救った。本質を知ることが重要であるという話だった。そして、ファーブルは「現象論でとどまっていた」というところで話題が他に移ってしまい、ファーブルファンの私としては、ちょっと不満だった。

深緑色の布で製本されたA5版くらいの「昆虫記」に出会ったのは、小学校5年生の時だったような気がする。シリーズ7、8巻の背表紙が並んだ今市小学校図書室の書棚のイメージは、今でも思い出すことができる。フンコロガシの記述に夢中になって、次々と巻を読み進むにつれて、この幸せな時間が終わってしまうのが悲しいと感じたのか、図書室の本棚に昆虫記の続編が並んだ夢を見たことを覚えている。蟻はなぜ自分の巣に帰ることができるのだろうか。確かめるために、道に水をまいたり、土を移動したり、障害物を置いたり、ファーブルはいろんなことを試みる。そして、自分なりの結論と感想を述べる。そんな試行錯誤に面白さを感じたのかもしれない。

学生の頃、古本屋で買った岩波文庫で、もういちど読み直した。昆虫観察をもとに「進化論」を批判するファーブルの論理が印象に残っている。芋虫を狩って、毒液で麻痺させ卵を産み付ける蜂。芋虫の神経節をねらって正確に針を打ち込み、目的を遂げる狩人蜂は、ほんとうに進化の産物なのだろうかという疑問は、今でも解かれていない謎だ。ファーブルの手法はちょっと独断的で、文章は思い込みの強いおっさんという感じ。科学的でないという人もいる。でも、それが「昆虫記」の魅力のひとつなのだと思う。

本国のフランスでは知名度がないというファーブル。19世紀末に書かれた「昆虫記」はなぜか日本で人気がある。家の本棚には岩波書店の「完訳 ファーブル昆虫記 全10巻」が並んでいる。寝転がって読むには重たいので、新しい文庫本も買った。時折手に取るけれど、小学生の頃の感動は戻ってこない。

長男、二男が今市小学校へ通っていた頃、図書室の書棚を探したら、「昆虫記」はまだ置いてあり、驚いたことに貸出票に私の名前が残っていた。あの緑表紙の「昆虫記」は半世紀が過ぎようとする今も、今市小学校の本棚にあるのだろうか。 (手塚郁夫)

私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

会員について

正会員：49

賛助会員：20

団体会員：3

入会金はありません。

年会費(一口)：正会員3,000円

賛助会員 個人5,000円、団体10,000円



「なんになわ」活動の約3割は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

通信20号をお届けします。毎年、総会が無事終了し、ちょっと休みたいモードに入って通信の編集が遅くなります。年々この「休息时间」が長くなっているような気がするのはどうしてでしょうか…。今回は、富岡さん、山田さんからの投稿を掲載しました。次回は8月発行の予定。記事のアイデア、原稿など、お寄せください。今年度も、「ひろば」をよろしくお願いいたします。